

# まちのいざもよ



第五号：二〇二二、二

## いざもと公園

発行・編集

まちの保育園 吉祥寺

「まちのこどもと」とは

まちの保育園 吉祥寺が地域の子育て世帯の皆様へ発信する小さな子育て情報誌です。

毎回テーマを設けながら、まちの保育園が大切にしていることや、子どもたちの豊かな姿を、園だよりから抜粋してお伝えしていきます。

第五号からは「こどもと公園」をテーマにお伝えしております。

### 【0歳児と公園】

武蔵野市にはたくさん公園があります。まちの保育園 吉祥寺の近くにも「すくすく泉公園」「むらさき公園」「井の頭公園」などたくさん公園があり、そのどれもが子どもたちにとってよい学びの場となります。

「0歳の子どもには公園に行って何をしたらいいの?」「そもそも遊ぶってどんなこと?」と疑問に思う方もいるかもしれません。滑り台で滑ったり、砂場で砂山を作ったり、かけっこしたりなど思い浮かぶ遊びはもちろん難しいですが、0歳の子どもたちは視覚、聴覚、嗅覚、触覚を通じて多くの体験をしています。彼らにとっては世の中のほとんどが初めての出会いであり、それと触れること、何かを試すことで世界を構築しています。

そんな0歳の子どもたちにとって、公園とは安心して世界を広げることができる良き遊びの場であるように私たちは考えています。

### 【公園との出会い】

初めはベビーカーの中から、木々を眺め、風の感触、匂い、空気の温度を感じることから始め、少しずつ公園内に生えている草木に触れていきます。この年齢の子どもたちにとって「身体的に親から離れて遊ぶ」というのは勇気がいる行動とも思えます。0歳といえど子どもたちそれぞれに性格がありますので、どんと公園を探索する子や、まだまだ大人にくっつきながら世界と触れていたい子どもなど様々です。

「公園で遊ぶ」というのは、あくまで楽しむことなど彼らにとってポジティブな気持ちでいられることが大切です。子どもたちはまず一緒に過ごす大人が公園で心地よくしている表情をみて、公園は危険な場所ではないのかもしれないと感じ、安心して個々のペースで地に足をつけたり、草をむしってみたり、思い思いのやり方で世界を広げてゆきます。

この「草をむしる」「土を触る」「匂いを嗅ぐ」「きのみを摘む」など、そうした行為が彼らにとっての「公園遊び」となるのです。

もちろん公園というのはポイ捨てのゴミなどが落ちていたりすることもありますので、全てが綺麗なわけではありません。この年齢の子どもたちにとって、ものを口に運ぶ行為もまた世界を広げる一つの手段になります。

口に入れて良いものダメなもの分別がつかないのは当然のことなので、「これは食べられないものだよ」と一言添えながら一緒に見守るチャンスです。丁寧な関わりの積み重ねが、少し大きくなった子どもたちの言葉につながりますので、心に余裕がある時はぜひそのような時間を過ごしてみてください。

